ニュースリリース（日本語抄訳版）

メッセ・デュッセルドルフ　サステナビリティレポート

メッセ・デュッセルドルフ、第 2 回目となる自主的なサステナビリティレポートを公開
～責任を可視化：環境、社会、パフォーマンス、ガバナンスにおける確実な前進～

2026 年 10 月 7 日、デュッセルドルフ｜メッセ・デュッセルドルフは法的義務の枠組みを超えて責任を果たすため、第 2 回目となる自主的なサステナビリティレポートを公開しました。当社は本レポートを通じ、コアビジネス、社内プロセスおよび雇用主としてのあらゆる側面において、持続可能性をどのように一貫して推進しているかを明らかにしています。義務的な報告基準の対象外であるものの、EU が新たに策定した自主報告義務（VS: Voluntary Standard）に準拠し、その活動と進捗を透明性高く開示しています。

戦略的コミットメントとしてのサステナビリティ
主催者、雇用者、地域の経済的要因、そして国際的なマルチプライヤーとして、メッセ・デュッセルドルフは多岐にわたる責任を担っています。そのため、サステナビリティは企業の戦略的発展にしっかりと組み込まれています。当社のサステナビリティ戦略は、環境（Planet）、人（People）、パフォーマンス（Performance）、ガバナンス（Governance）の 4 つの領域と、計 13 の重点トピックで構成されており、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を指針として掲げています。

メッセ・デュッセルドルフ取締役マリウス・ベルレマンは、「私どもは意識的に、新しい自主報告基準（VS）に則り報告を行うことを選択しました。これにより透明性と比較可能性を高め、私どものサステナビリティに対する真摯な姿勢をより明確に示していきます。私どもにとって重要なのは、サステナビリティを孤立したプロジェクトとして扱うのではなく、日々の業務、従業員のため、そしてイベントにおける『共通の責任』として捉えることです」と述べています。

4 つの領域における確実な進捗
環境保護においては、特に顕著な進捗が見られます。メッセ・デュッセルドルフは、2019 年の基準年から 2025 年にかけ、主に暖房や電力消費に起因する Scope 1 および Scope 2 の温室効果ガス排出量を 62%削減しました。この削減を大きく支えたのは、

グリーン電力の導入、長年にわたり確立されてきたエネルギー管理システム、そしてインフラの継続的な近代化です。

同時に、当社はデータ基盤を大幅に拡充しました。2025 年の温室効果ガスインベントリには、デュッセルドルフ拠点での事業活動に関連するその他の間接排出である、主要な Scope 3 のカテゴリが初めて含まれました。これにより、最大の排出源とさらなる削減の可能性がより明確に浮かび上がりました。

さらに、再生可能エネルギーの拡大に向けた力強いシグナルとして、7 つの展示会ホールの屋根への太陽光発電のシステムの設置が挙げられます。2025 年に開始されたこの設置工事は、2026 年 7 月に完了しました。システムは総面積約 79,000 ㎡に及び、総ピーク出力は 5,450kWp に達します。

また、メッセ・デュッセルドルフは多様性とインクルージョン、ガバナンス、モビリティ、自然保全、従業員育成の分野でも具体的な施策を実施しています。2025 年に設立された「Proud」ネットワークにより、企業として多様性への姿勢を示しているほか、同年導入された行動規範が、誠実、構成、責任ある行動のための拘束力ある枠組みを提供しています。さらに、より持続可能な通勤を支える新しいモビリティ予算の導入や、カフェテリアの浄水サーバー設置により、ペットボトル飲料の運搬数が 2023 年比で約 63,000 本削減されました。社内アカデミーのプログラムへの約 400 回の参加実績は、学習と開発の企業文化をさらに強固なものにしています。

持続可能なソリューションのための国際プラットフォーム

「パフォーマンス」の領域において、メッセ・デュッセルドルフはプラットフォームとしての類まれな強みを生かしています。当社のイベントは未来志向のトピックを取り上げ、持続可能なソリューションの可視性を高めると同時に、ビジネス拠点としてのデュッセルドルフを強化しています。企業、研究機関、業界団体、そして国際的なコミュニティを結び付け、未来の重要課題に向けたステージを提供しています。報告年の具体的な事例として、海洋保全を称える「boot’s ocean tribute award」や、「Save FOOD Design ＆Sustainability Awards」をはじめ、K2025 におけるサーキュラーエコノミーの特別展などが挙げられます。

第 2 回目となる今回の自主的サステナビリティレポートは、これまでのステータス報告であると同時に、さらなる挑戦への出発点でもあります。メッセ・デュッセルドル

フは今後も、環境負荷の体系的な評価を続け、資源のより意識的な利用や自社運営およびイベントフォーマットへのサステナビリティの定着をさらに深化せていきます。

メッセ・デュッセルドルフ、コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ（CSR）ダイレクターを務めるアンドレア・エッパートは、「私どもは、ともに達成してきた進捗を誇りに思い、それを基盤としてさらに前進してきます。資源消費の削減を継続し、見本市における持続可能な課題やソリューションをさらに可視化するとともに、私どもの国際的なリーチを活用し、顧客やパートナーの皆様とともに変革を推進していきます。このようにして、私どもは持続可能な見本市業界の未来に向けて責任を果たして参ります」と締めくくっています。

サステナビリティレポート 2025（英語）のダウンロードはこちら

メッセ・デュッセルドルフグループについて

メッセ・デュッセルドルフは、世界をリードする見本市主催会社のひとつに数えられます。61 万 3,000 ㎡の広さを誇る展示会場では、毎年 20 の主な国際見本市を含む、約 40 の見本市が開催されています。全 18 のホールには各業界の国際的なマーケットリーダーや主な意思決定者たちが一堂に会し、イノベーションの発表や発掘、意見交換、そしてネットワーキングを行います。メッセ・デュッセルドルフの専門分野には、金属・鋳造技術を含む「機械・プラント・設備」（例：drupa, K, interpack, glasstec, wire, Tube など）、「流通・小売・サービス」（例：EuroShop, EuroCIS, ProWein）、「医療・健康技術」（例：MEDICA, COMPAMED, REHACARE, A+A）、「ライフスタイル・美容」（例：BEAUTY, TOP HAIR, The Art of Beauty & Health）、「レジャー」（例：boot, CARAVAN SALON）、「モビリティ」（例：XPONENTIAL Europe, Flotte!）が含まれます。

また、このほかに子会社のデュッセルドルフ・コングレスが多数のコンベンション、企業イベント、カンファレンス、会議などを手掛けています。また海外では 142 か国をカバーする 78 の代表部および 9 つの子会社を設置し、80 以上のイベントを主催しています。

【本件に関するお問い合わせ】

メッセ・デュッセルドルフ

Dr. Andrea Gränzdörffer

コーポレート・コミュニケーション部長

Tel.: +49 (0) 211/4560-555　E-mail: GraenzdoerfferA@messe-duesseldorf.de

株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

富田 那渚（Ms. Nao Tomita）

E-Mail: mdj@messe-dus.co.jp